

# 道写協

## 北海道写真協会

事務局 ■札幌市中央区大通西3丁目6道新文化事業社内  
 011-210-5735(直通) 011-207-3939(FAX)  
<http://www.doshakyo.org/>

第140号

### 支部長会議(総会) 報告

5月19日(日)北海道新聞社会議室で、令和元年度支部長会議(総会)が開催されました。会議には22支部長が参加、武藤省吾顧問から「昨年本郷会長が急逝し、私が会長代行として支部長会議まで執行する事になりました。ここ数年会員の高齢化と会員数の減少は深刻な状態となっております。今後の道写協、写真道展の抜本的改革の必要性から拡大企画会議を2回開き、今支部長会議で改革案を提案すべく議論をしてきましたが、結論に至らず断念しました。次期新役員に継続審議として委ねたいと考えています。また、本年度は審査委員、会友の退会が多く重なり組織体制の危機を感じています。本日の支部長会議で活発な提言が出されることを期待します。」と話されました。



支部長会議風景

引き続き北海道新聞社事業センター事業委員の塩野谷泰宏氏から「役員、支部長の皆様には日頃の活動に心から敬意を表します。私は30年程前に道写協の担当をしたことがあり懐かしく思っており、ます。道新と道写協とは写真道展を通

して、北海道の写真文化にとても大きな貢献をしてきました。道新としても、これからの皆様と一緒に写真文化の向上に邁進したいと考えています。」と挨拶がありました。

出席支部長の紹介後、議長選出で室蘭支部長の佐々木昇氏が選出され議事に入り、**一、事業報告**

#### ①各委員会、会議報告

◎写真協会関係(大平事務局長)  
 役員会5回、企画委員会1回、又拡大企画会議2回行い、今後の道写協・写真道展の現状と課題をテーマに話し合いが持たれました。

◎写真道展関係(大平事務局長)  
 年4回の定例実行委員会、第66回写真道展審査会の開催と審査内容が報告されました。

審査は、審査委員長に加賀谷重雄氏(札幌)、招待審査員に岩井直樹氏(札幌)を迎え3月2・3日に行われました。今回から第4部「学生の部」を新設し、公募展に組み入れました。

◎第66回写真道展審査報告(瀧野実行委員長)  
 公募の出品数は5、137点、出品者404名(支部会員171名42%)。今回から各部10点以内に応募制限をしました。が、応募者・点数では影響はなかったと思います。入賞・入選点数270点、実入選者は184名31%、女性46名、初入選31名でした。学生の部は3点以内の応募制限で減数をみましたが、効率の

良い審査が達成できました。作品発表後、1部3席で類似作品が判明し、取消を行いました。応募の際、「二重応募」「類似作品」については十分に注意されますよう、応募者への指導よろしくお願ひ致します。

#### ③事業報告(大平事務局長)

第65回写真道展公募展は札幌(入館者3、465名)を皮切りに全道15会場で開催。「2018年北海道写真協会支部長会議」「第65回記念写真道展表彰式」「祝賀会」を5月20日に開催。「道写協会報」1375139号発行。審査員の派遣3支部、年度賞楯の申請は12支部。

**二、道写協決算報告(瀧野、阿部会務委員)**  
 決算報告では、会員数の減少による収入減の対策が急務との発言が会計から成されました。

◎第65回記念事業特別会計報告(森副会長)  
 第65回記念事業で特別会計から支出した決算報告が行われ、収支に問題なく承認されました。

◎会計監査報告(川原監査委員)  
 関係帳簿、通帳、領収書等を照合した結果、適正かつ正確に執行されていきましたとの報告がありました。

#### 三、事業計画(大平事務局長)

第66回写真道展作品展(札幌)は道新ぎやらりー、DOBOXにて開催中。以後14会場を巡回。「2019年審査会員・会友作品展」5月23〜28日道新ぎやら



表彰式風景

賞 大賞 水谷 晃さん  
 賞 水谷 晃さん  
 授 与 道新文化事業社社長 山崎 隆志氏

り。「令和元年北海道写真協会支部長会議」「第66回写真道展表彰式」を5月19日に開催。道写協会報発行(140、142号)審査会員支部派遣、支部年度賞授与は継続実施。

第67回写真道展の応募受付は令和2年2月1〜10日、審査は同年2月29〜3月1日。「第67回写真道展」5月14〜19日「2020年度審査会員・会友作品展」5月21〜26日両展会場道新ぎやらり

**四、令和元年度会計予算(瀧野、阿部会務委員)**  
 会計予算案は、原案通り承認されました。

**五、第65回写真道展・作品集会計報告**  
 (小室、五東実行委員) 支部長会議席上で、写真道展・作品集の会計報告が行われ、問題なく承認されました。

◎質疑応答 支部からの主な質問と要望の回答です。

「支部年度賞の贈呈内容について」  
 支部年度賞贈呈は、会員10名以上は1万円、9名以下は5千円となっております。支部例会以外の写真コンテスト等においても同様の取扱いで、年1回のみ申請です。

「記念回の表彰について」  
 記念回での功労賞、感謝状の表彰は特別なものではなく毎回行っている表彰と同様です。

「学生の部の応募点数3点以内は厳しいのでは」  
 応募作品の大幅な減数となりましたが、審査の効率化と応募者の選択の意識向上が見られます。

「記念回における審査委員長の招聘について(要望)」  
 記念回での著名な写真家の招聘は、審査だけでなく講演会又は表彰式参列についても実現に向けて検討してほしい

「会友へ発送している会報の取扱い」  
 支部長の要望で、会友個人に発送している「会報」は、140号から支部発送の中に同封します。

「巡回展の補助の増額を！」

巡回展を開催している支部の負担が年々増加し、今後の開催が危ぶまれます。補助の増額を何とか検討してほしい。

●ほかにも沢山のご意見、ご要望を頂きましたが、紙面の関係で掲載することができません。今後の課題として検討していきます。

六、規約改定（改正のみ記載）

「北海道写真協会規約」

第1章 総則

第1条

本会を「北海道写真協会（道写協）」と称する。以下全文で「本協会」を「本会」と改正。

第2章 目的および事業

第5条

「学生写真道展」を削除

第4章 組織および役員

第19条 2

顧問に：社長及び会長経験者等で本協会から委嘱を受けた者があたる。…

第21条 1

役員の内任は：原則として会長は

七、写真道展会友の承認

●会友承認：中川昌子（岩見沢） 大場宏道（苫小牧） 澤岡政江（留萌） 澤田一夫（札幌） 白鳥敏昭（旭川）

八、審査会員・会友の退会

●審査会員：(故)本郷正利（小樽）(故)田村健太郎（旭川） 内山明子、森田 稔（札幌） 山岸幸雄（栗山） 才川 稔（中標津） 参与へ申請

●会 友：辻 栄子、紙谷重行（札幌） 川原民也（三笠） 佐藤精一（苫小牧） 伊藤三郎（紋別） 栗野孝市（小樽） 岡本雄毅、小坂 隆、伊藤正美（釧路） 森木欣一、池田政人（旭川）

佐々木議長退任挨拶で支部長会議は終了しました。支部長の皆さまから活発な論議、また貴重なご意見を頂き感謝申し上げますと共に、お疲れ様でした。

(文責：森)

平成30年度写真協会一般会計決算報告（平成30年5月1日～平成31年4月30日）

収入

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	内 訳
繰 越 金	137,579	137,579		前年度繰越金
年 会 費	1,943,000	1,820,000	△123,000	審査会員46名（新1名）、会友67名（新6名） 会員297名
入 会 金	28,500	37,500	9,000	新入会員25名
登 録 料	105,000	120,000	15,000	審査会員1名 会友6名
諸 収 入	21	100,002	99,981	銀行利息2円 特別会計100,000
収 入 合 計	2,214,100	2,215,081	981	

支出

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	内 訳
事 業 費	500,000	434,915	△65,085	道展巡回展（18万）公募保管料（9.8万） 支部年度賞・奨励賞等楯（13万） 表彰式関係他（3万円）
印 刷 費	300,000	293,436	△6,564	道写協ニュース年3回（25.5万）封筒他（3万）
会 議 費	320,000	372,711	52,711	支部長会議（25.5万） 各種会議・宿泊費（10万）
人 件 費	20,000	20,000	0	ホームページ費（2万）
交 通 費	280,000	237,740	△42,260	各会議・役員会・企画会議等（20万） 支部審査員派遣旅費・要項検討委員会他（4万）
通 信 費	180,000	120,563	△59,437	郵送費、切手、電話代
事 務 費	100,000	116,801	16,801	事務連絡費、コピー事務用品一式
慶 弔 費	30,000	85,006	55,006	弔電、香典、見舞金
雑 費	20,000	15,936	△4,064	振込み手数料他
積 立 金	200,000	0	△200,000	記念事業積立金
予 備 費	14,100	0	△14,100	巡回展箱代他
繰り出し金	250,000	250,000	0	写真道展へ
支 出 合 計	2,214,100	1,947,108	△266,992	

収入合計－支出合計	267,973	次年度繰越金
-----------	---------	--------

特別会計積立金

前年度繰越金 1,000,145 + 利息4 - 第65回記念事業525,359 = 474,790（70回展へ積立）



(六月二十日 第一回役員会を終えて)

令和元年五月〜令和二年五月  
役員(敬称略)

- 顧問 五十嵐正剛 加藤 利器
- 会長 中野 潤子
- 副会長 西澤 實 田嶋 英夫
- 会務委員 山下 智 瀧野 邦安
- 事務局次長 福島 恵里
- 事務局員 秋庭 彰徳
- 監査委員 水野 信治 壬生 賢哉
- 香取 征子
- 河江 利幸
- 田本 實 川原 静雄

会長就任挨拶

写真協会の発展を願って

中野 潤子

緑濃い季節となりました。会員の皆様には  
ご健勝でお過ごしのことと思います。

この度は、はからずもこのような責の重い  
任につくことになりました。諸先輩の巨大な  
遺産を継いで、今日に至った写真協会の遺産  
を引き継ぐにあたっては大きな負担を感じて  
います。しかも、時代が急激に変化を続け、  
先が見えない程の変貌を遂げています。そん  
な中で新たな光を求めなければならぬ責  
任の重さを痛感しています。ここ数年会員の  
減少が続く、協会の基本がぐらつき始めてい  
ます。さらに高齢化が進み、発展の道は迷  
路にはまったままです。本協会の最大の事業  
である「写真道展」もまた同じ悩みを抱え  
ています。こんな中、新たな副会長や事務局  
長、会務委員ともども共催の北海道新聞社  
のご高配を頂きながら、何とか迷路からの脱  
出をはかろうと決意しております。

第一に下げたいことは、総会の日程の  
変更です。従来の日程は、写真道展の終盤  
に総会に代わる支部長会議が開催されてい  
るため、総会に提出される事業報告や事業  
案・決算書など実際と大きなギャップがあ  
ります。例えば写真道展の決算書は前年度  
に実施済のものであり、予算案は、支部長  
会議の数日後には事業が終了するもので  
す。道写協の事業案もまたしかりです。こ

これらの矛盾を解決するためには、道写協と  
写真道展の会計年度を一つにし、年度の事  
業の終了後に総会の開催時期を変更しなけ  
ればなりません。この件につきましても、  
会員の皆様のご意向を確かめ、変更を決断  
していこうと思えます。勿論、共催の北海  
道新聞社のご意向もお聞きいたします。

また、現行の規約の規定では総会の出席  
者が明示されていないため、支部長会議が総  
会を代行することが慣例となつています。こ  
れでは審査会員の意向は全く反映されませ  
ん。ちなみに支部長には審査会員はならない  
という申し合わせがあります。審査会員や  
会友の意を生かすには総会を見直し、支部  
長会議にも若干名の審査会員の参加を考  
え、ゆくゆくは代議員制度の導入なども考  
えられます。どう改革するかは皆さんの意向  
によります。何卒その意をご理解しご協力  
をお願いします。

次に、諸経費の問題です。写真道展は道  
新からの分担金と出品料で成り立っていま  
す。道写協は審査会員・会友の登録料と本  
部会費で賄われますが、今日の社会情勢を  
かんがみますと本協会の運営は極めて難し  
い状態にあります。しかし、直ぐに値上げ  
を考えるのではなく、抜本的に経費の節約  
並びに事業の合理化などを推し進めてい  
こうと思えます。

まだまだ、課題は山積みです。その都度、  
会員の皆様にお諮りをし、検討の経過など  
の情報をお知らせしたいと思います。よ  
ろしくご協力をいただきたく存じます。

役員一同、一丸となって道写協の発展に  
歩みを進めたいと思えます。

最後に、重ねてお願いですが、会員の皆様  
のご協力こそ道写協発展の根底となります。  
どうぞ宜しくお願いいたします。

お願い

※①〜⑤は左記担当者へ連絡、依頼を

- ①会費納入 川原 静雄
- ②支部年度賞 西澤 實
- ③新会員の会員証・バッジ 田嶋 英夫
- ④支部成績 田本 實
- ⑤審査会員の支部派遣 山下 智

新審査会員「私の抱負」



香取 征子  
札 幌

写真を始めてよき師、よき仲間との貴重  
な出会いに恵まれ、道写協札幌支部例会で  
の勉強の場を得たおかげと深く感謝して  
おります。

責務を重く受け止め、これからも、元氣  
に写真を楽しみながら精進してまいります。

本紹介

土門 拳 著『写真作法』から

「モチーフに食いつかなくて撮ること」

目に見えるものを通して、モチーフの内  
面へと切り込むことでことである。切り込  
んで、目に見えない内面を再び目に見えるも  
の、つまり、写真として再現することである。

田村健太郎氏(写真道展審査会員)ご逝去

追悼 田村健太郎先生!

今年の3月12日、家族旅行中突然の体調不良により、逝去されました。享年89歳でした。田村先生の訃報の知らせは、家族葬を終えて自宅へ帰られた14日のお昼頃でした。信じられない驚きと悲しみの交錯した中で、弔問に伺い例会でも黙とうを捧げました。2月の例会では、元気なお姿で現在の写真に対する想いを熱く語ってくれていたお姿が、今も浮かびます。只々残念でなりません。



先生は、美瑛町で仲間との交流を図る。自身は「白鳥」「アオサギ」「大雪の山」そして「オホソック」に魅せられ活躍。また、「富士コン」では大賞を受賞し各地で作品展を開催。道写協では各種大臣賞受賞、審査会員、審査委員長を2度歴任された。先生!ありがとうございます。

「写真道展審査会員 馬場和美)」心よりのご冥福を会員の皆様と共に祈ります。



支部例会成績

旭川 支部長 白鳥敏昭

- ▽3月例会(14日) 田本實審査会員選考) (特選) ①②小山満③池永靖子④佐藤繁雅⑤佐藤祐子 (入選) 森田正義・吉田祥子二点 白鳥敏昭・宮野和子二点ほか
▽4月例会(11日) 馬場和美審査会員選考) (特選) ①③吉田清治郎②吉田祥子④上平秀美⑤森田正義 (入選) 佐藤祐子・吉田祥子
宮野和子二点、池永靖子ほか
▽5月例会(9日) 田本實審査会員選考) (特選) ①⑤小山満②森田正義③山崎徹④佐藤祐子 (入選) 森田正義・白田忠雄
宮崎哲夫・山本義則二点ほか
▽6月例会(13日) 馬場審査会員選考) (特選) ①吉田祥子②浦島寛③森田正義④白田忠雄⑤小山満 (入選) 佐藤祐子・浦島寛
吉田祥子・森田正義・宮野和子二点ほか

札幌 支部長 山形典夫

- ▽4月例会(19日) 山下智審査会員選考)

室蘭 支部長 佐々木 昇

- ▽3月例会(22日) 審査互選) ①成田正利②大坪恵子・齋藤ますみ③田村謙次・今井富夫・浦野進 (入選) 島海政史ほか
▽5月例会(24日) 中西勉審査会員選考) ①田村謙次②成田正利③齋藤ますみ・太田秀樹・大坪恵子 (入選) 吉井良平・森美津雄ほか
▽平成30年 年度賞 ①田村謙次②齋藤ますみ③太田秀樹④成田正利⑤島海政史⑥浦野進⑦今井富夫⑧尾形和雄・佐藤俊晴⑨大坪恵子

余市 支部長 一戸弘利

- ▽3月例会(16日) 審査互選)

小樽 支部長 川原静雄

- ▽5月例会(8日) 小泉和子審査会員選考) ①一条周一②嵯峨秋雄③松居秀昭④根本辰男 ⑦7月例会(3日) 川原静雄審査会員選考) ①嵯峨秋雄②一条周一③根本辰男④松居秀昭

函館 支部長 松山浩司

- ▽1月例会(23日) 石島忍審査会員選考) ①渡部啓②荒木憲幸③小池貞子・七崎美雪 (入選) 宗山和夫・岩佐敏子・松山浩司・佐藤眞奈美・玉田多江子・岩本一志ほか
▽3月例会(27日) 石島忍審査会員選考) ①岩佐敏子・渡部啓②小池貞子③荒木憲幸 玉田弘志 (入選) 宗山和夫・岩本一志・佐藤眞奈美・菅野博也・玉田多江子ほか
▽5月例会(22日) 石島忍審査会員選考) ①松山浩司②玉田弘志③菅野博也・玉田多江子 (入選) 岩佐敏子・荒木憲幸・八木橋修悦・宗山和夫ほか

留萌 支部長 崎出恒夫

- ▽4月例会(14日) 審査互選) ①②③松葉師正③畑忠幸④川上正己⑤崎出恒夫
▽5月例会(12日) 審査互選) ①加藤美佳①②崎出恒夫①②畑忠幸
▽6月例会(9日) 審査互選) ①③松葉師正①畑忠幸②③澤岡政江③川上正己
▽7月例会(7日) 審査互選) ①①加藤美佳②③畑忠幸

栗山 支部長 黒田幸則

- ▽6月例会(28日) 審査互選) ①②中島武士②③敦賀千恵子③齋藤優子 黒田幸則 (入選) 齋藤優子・中島武士ほか

恵庭 支部長 西澤 實

- ▽5月例会(13日) 審査互選) ①田中康夫②佐野ミヨ③吉村剛・菅井正俊 神能俊行⑥菅原恵子⑦中岡正美・吉村登美子

中村忠司

- ▽6月例会(10日) 審査互選) ①菅原恵子②西澤實③加藤憲秋・吉村登美子⑤中岡正美⑥佐野ミヨ・村井正人・菅原正俊 田中康夫・吉村剛
▽7月例会(8日) 加賀谷重雄審査会員選考) ①加藤憲秋②田中康夫③村井正人④吉村登美子⑤五東建夫⑥西澤實⑦神能俊行⑧菅原恵子⑨佐野ミヨ

釧路 支部長 石川 隆

- ▽5月例会(9日) 奥野時夫審査会員選考) ①長尾芳文 ②中嶋淳一 ③蛭名昇 ④北野宏幸 ⑤林田定昭 ⑥高橋米子
▽7月例会(11日) 工藤二男審査会員選考) ①橋本憲一②高橋米子



5月例会1位「季節はすれ」 カラー一長尾芳文 考) ①橋本憲一②高橋米子

岩見沢 支部長 鈴木佳夫

- ▽5月例会(8日) 審査互選) ①中神由美子・中川昌子③松本久子④友広茂夫・鈴木佳夫
▽6月例会(12日) 審査互選) ①④中川昌子②中神由美子③輪島礼子④山崎正義
▽7月例会(10日) 審査互選) ①④中川昌子②③岩井郁美④木村克己

編集後記

情報発信として大切な会報を1440号から担当することになりました。不慣れではありますが、よりよい紙面づくりに努めてまいります。原稿や写真のご協力をよろしくお願いたします。 田本、香取